

# 令和6年度 第56回 大学院セミナー

令和6年 11月 20日

|                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| 分野名<br>Area of Research<br>(責任者名)(内線) | 内臓機能生理学分野<br>責任者名( 井上 剛 ) 内線( 7031 )  |
| 演題<br>Title                           | 「組織炎症記憶」蓄積がもたらす慢性炎症疾患の難治化とその制御  |
| 講師等<br>Presenter                      | 平原 潔先生<br>千葉大学大学院医学研究院免疫発生学・教授  |
| 概要<br>Abstract                        | <p>慢性気道炎症をはじめとする慢性炎症疾患では、末梢組織へ誘導されたCD4 T細胞集団の一部が組織常在性記憶T (Tissue resident memory T: T<sub>RM</sub>)細胞として長期間にわたり組織に常在する。さらに、異所性リンパ組織 (Tertiary lymphoid tissue: TLT) などの組織変化が誘導される。T<sub>RM</sub>細胞と炎症組織の構成細胞は相互に補完し“組織の炎症記憶”を形成する。また、TLTで維持されるT<sub>RM</sub>細胞は組織線維化などを誘導し、慢性炎症疾患の慢性化・難治化の原因となる。そのため、T<sub>RM</sub>細胞とTLTなどを「組織炎症記憶」として包括的に捉えて理解することが、難治性炎症疾患の病態解明には重要である。しかし、T<sub>RM</sub>細胞と組織の構成細胞群の間での細胞間ネットワークを介した組織炎症記憶維持の詳細は不明な点が多い。</p> <p>今回のセミナーでは、これらの組織炎症記憶に関する我々の最新知見を紹介するとともに、慢性気道疾患の難治性の新たな治療法開発にむけた新規標的細胞・分子の可能性について検討する。</p> <p>参考文献;<br/>           1. Morimoto Y., et al. <i>Immunity</i> (2018)<br/>           2. Ichikawa T., et al. <i>Nat. Immunol.</i> (2019)<br/>           3. Okano M., et al. <i>Immunity</i> (2022)<br/>           4. Sato Y., et al. <i>Nat Rev Nephrol.</i> (2023)</p> |
| 開催日時<br>Date and Time                 | 令和6年 12月 4日(水)<br>15:00 ~ 16:00   |
| 開催方法<br>Online/Face to face           | 対面:視聴覚セミナー室1  |
| 備考<br>Notes                           |   |

- 先端医療科学特論(基礎編)
- 先端新興感染症病態制御学特論
- 日本語(Japanese)
- 対面(Face to face)

- 先端医療科学特論(臨床編)
- 先端放射線医療科学特論
- 英語(English)
- オンライン(Online)